

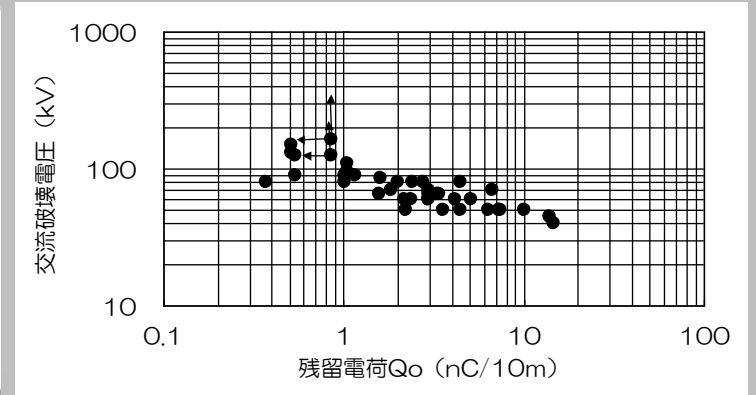
# 特別高圧 CV ケーブル絶縁劣化診断

(残留電荷法)

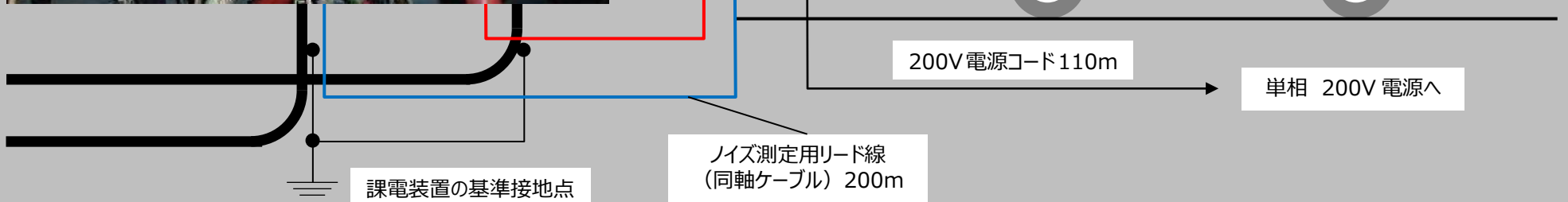
CV ケーブルの絶縁劣化における最も代表的な形態である「水トリー劣化」を非破壊で検出する技術として、「残留電荷法」による絶縁劣化診断を行っております。

この技術は、22~66kV 級の現地布設 CV ケーブルに対する絶縁劣化診断に使用されており、直流漏れ電流法などの従来の診断技術では検出不可能であった未橋絡水トリーの検出が可能となり、特別高圧 CV ケーブルの信頼性向上に大きく寄与しています。

## 測定装置および概要



劣化信号と破壊電圧の相関 (22kV)



## 特長

- 豊富な測定実績
- 周囲の電磁界の影響を受けない
- 接地線取外し不要
- 車輻としては、小型で取り回しの良い  
2t 標準車サイズを用いており、  
狭隘な場所にも容易に出入り可能
- 電源歪みの影響を受けない
- 多点接地線路測定可能
- 最大で 5~10km の 22~66kV 級  
CV ケーブル線路に対応可能
- 直流迷走電流によるノイズの多い  
環境下でも測定可能